

千葉商工会議所景気動向調査

……平成25年5月期調査結果報告……

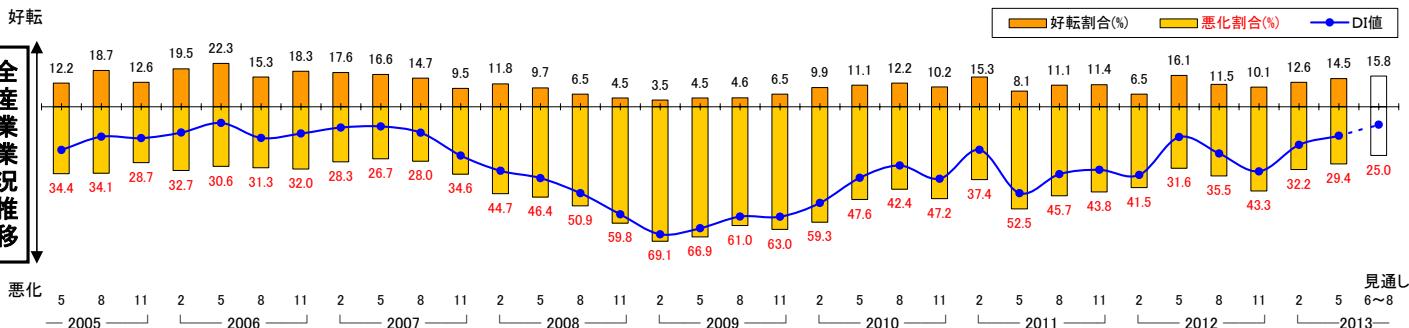
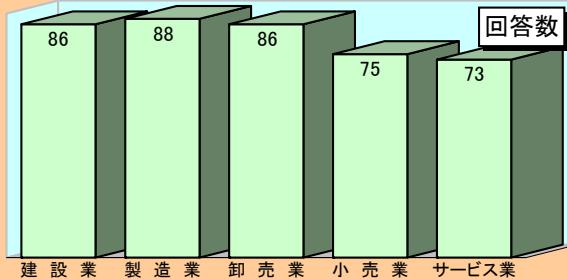
調査期間：平成25年5月14日(火)～5月21日(火)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 408社 回答率 81.6%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



【全体の特徴】

5月の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成25年2月、以下同じ)と比較して、建設業を除く4業種で上昇した結果、全産業合計DIは4.7ポイント上昇して▲14.9となった。また、向こう3ヶ月(6～8月、以下同じ)の先行き見通しでも、全ての業種で上昇見通しとなった結果、全産業合計DIは現状より5.7ポイント上昇の▲9.2となった。

売上DIでは、前回調査と比較して、製造業、小売業、サービス業で上昇した結果、全産業合計DIは0.4ポイントと若干上昇して▲15.9となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しでも、全ての業種で上昇見通しとなった結果、全産業合計DIは現状より10.4ポイント上昇の▲5.5となった。

採算DIでは、前回調査と比較して、サービス業を除く4業種で上昇した結果、全産業合計DIは3.5ポイント上昇し▲22.2となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しでは、卸売業、小売業、サービス業で上昇見通しとなった結果、全産業合計DIは現状より0.7ポイント上昇の▲21.5となった。

今回の調査では、業況DI、売上DI、採算DIとも2期連続の上昇となった。ただし売上DIに関しては、製造業と小売業の上昇幅がやや大きく、サービス業はほぼ現状維持であったが、建設業と卸売業は下降幅が大きく、業種間で対照的な結果が出ている。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較し、業況DI、売上DIはそれぞれ1.5、10.9ポイント下降して1.2、▲6.9となったが、採算DIは5.4ポイント上昇して▲9.5となった。業況DIと売上DIは2期ぶりの下降、採算DIは2期連続の上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DIは上昇、採算DIは下降するとの見方となった。

企業の声としては、「見積金額を叩かれる」「企業生産活動が海外へ移行し設備投資は減少」等厳しい状況を訴える声の一方で「公共工事の発注が全体的に増えている」といった声もあった。

・製造業

前回調査と比較し、業況DI、売上DI、採算DIはそれぞれ1.5、8.2、5.9ポイント上昇して▲17.3、▲12.5、▲20.7となった。業況DI、売上DI、採算DIともに2期連続の上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DIは上

昇、採算DIは下降するとの見方となった。

企業の声としては円安の影響に関する言及が複数あり、「引き合い及び受注が増加傾向」といった声もあるものの、多くは原材料価格上昇による採算性の悪化を懸念する声であった。

・卸売業

前回調査と比較し、業況DI、採算DIはそれぞれ7.8、3.1ポイント上昇して▲20.0、▲23.8となったが、売上DIは7.2ポイント下降して▲20.0となった。業況DIは3期連続、採算DIは2期連続の上昇、売上DIは2期ぶりに下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIともそれ以上昇するとの見方となった。

企業の声としては円安の影響に関する言及が多く、「輸出高で業績好転」「海外顧客の送金が早くなつた」との声の一方で、国外原材料の価格高騰や国内原材料の不足を懸念する声があった。

・小売業

前回調査と比較し、業況DI、売上DI、採算DIともそれぞれ5.9、8.3、1.0ポイント上昇して▲35.1、▲31.0、▲44.6となった。業況DIは2期連続、売上DI、採算DIは2期ぶりの上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも上昇するとの見方となった。

企業の声としては、円安による仕入価格の上昇やその上昇分の販売価格への転嫁につき難儀している様子がうかがえた。また、天候不順による需要停滞や、アベノミクスによる景気回復効果も個人消費の拡大までには至っていない旨の指摘もあった。

・サービス業

前回調査と比較し、業況DI、売上DIはそれぞれ6.8、1.1ポイント上昇して▲4.3、▲9.9となったものの、採算DIは1.6ポイント下降して▲14.1となった。業況DIは3期連続、売上DIは2期ぶりの上昇、採算DIは2期ぶりの下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも上昇するとの見方となった。

企業の声としてはアベノミクスの効果に関し「恩恵享受には時間がかかりそう」「顧客からそのような雰囲気は出でていない」といった疑問の声の一方、今後の成果を期待する声も複数あった。

【調査結果のポイント】 * 景況感は2期連続で上昇したもの、急激な円安傾向に懸念も

【全産業】

